

ピアノを弾こう!

教室訪問 PART 2 第7回

子どものレッスン、大人のレッスン、さて今回は?

今月のピアノ教室 宮城・仙台市 / ヤマハ仙台センター



音楽が盛んな土地柄らしく、仙台市内にあるヤマハ音楽教室は14カ所。そのひとつである仙台センターは市内中心部にあってアクセスの利便性もよく、1歳から大人まで幅広い年代の生徒が在籍している。地元の生徒のほか、他地域から転動してきて通うようになった生徒も多い。■宮城県仙台市青葉区上杉2-3-7 K2小田急ビル2F ☎022-716-2263 / 仙台市営地下鉄「北四番丁駅」より徒歩1分

個人レッスンだからできる、生徒のペースに合わせた指導

今回訪問したのは、宮城・仙台市のヤマハ仙台センターのピアノ教室だ。“楽しいレッスン”がモットーと言う菅原晴美先生の教え子は、9割が小・中・高校生。この日は、グレード7級にも挑戦している中2のレッスン風景取材した。

さあ、レッスンしましょっ!

今月の先生と生徒

菅原晴美先生

すがわら・はるみ ●ヤマハシステム講師を経て、ヤマハミュージッククリエイト仙台所屬(仙台センター)のピアノ講師として、週2日勤務。自宅でもピアノ教室を主宰する傍ら、ジャンルを問わずイベント、コンサートなどで演奏活動を行っている。

なかやまあかり 中山朱理さん(中2)

小3の時に家族の転動で仙台へ。ピアノは3~4歳から習い始め、仙台に引っ越してから仙台センターに通っている。中学の陸上部で、走り幅跳びと100メートル走の選手。宮城県の強化指定選手に選ばれているスポーツ少女だ。



グレード7級取得を目指す朱理さんは、複数の音を聴き分ける聴奏の練習中。総合的な音楽力が要求されるBコースを受験する予定。

ピアノも陸上も、両方頑張っています



菅原先生のレッスン流儀 “楽しさ”の中に、頑張ることや覚える喜びを共有する



「朱理ちゃんはとても頑張りやさん。陸上部の練習だけでも大変なのに、レッスンに通ってくるだけ十分エライ(笑)」と、菅原先生。

ピアノの個人レッスンに求められる多様性

仙台センターの広々とした部屋で、菅原晴美先生が教えていたのは中2の中山朱理さん。テキストを広げながらのレッスンのあとは、聴奏(両手)の練習だ。朱理さんは鍵盤を見ないようにそっぽを向いて、先生が両手で弾く音を当てるのだ。即興にもチャレンジ。「え〜!」と声をあげつつ、朱理さんが弾き始める。「ゆっくり、……そうそう……、弾き方に正解はないからね。自分にとっての正解を導き出すための過程が大事だから」

陸上もピアノも頑張りたいと話

す朱理さん。グレード7級(Bコース)の受験も本人の意志だ。そんな向上心の強い性格と部活のハードワークを理解したうえで、菅原先生も半歩上のレベルのレッスンに誘導しているようだ。

菅原先生が心がけているのは、「レッスンを“楽しい”と思ってもらえるように指導すること」。ただ“楽しい”だけではなく、頑張る楽しさや覚える楽しさを感じてもらうにはどうすればいいかと、いつも考えている。

年に1度、指導への要望や注文

を確認するために保護者アンケートを行う。さまざまな意見がある中で一番多いのは、「子どもの性格を理解して、個性に合わせた指導をしてほしい」という声だ。

そこから、ピアノの個人レッスンに求められる多様性に気づいたと話す。学校では、個々のペースに合わせられないけれど、ピアノのレッスンでは、本人のペースに応じた指導をしてほしい。「それができるのが、個人レッスンの良さ

→朱理さんのひじに手を当てて、腕の振り方を指導。「指だけでなく腕や肩、手首、手のしくみなど、身体の使い方をとくに意識して教えています」



前向きで、なんでもやってみようと思うタイプの朱理さん。中学では合唱のピアノ伴奏も引き受けている。

だと思えるようになりました」

とはいえ、“楽しい”だけでは前に進まない。発表会やグレード挑戦など、目的に向かって努力する大事さも教えたい。「だから、強制はしないけれど、グレード受験を推奨するようにしています」